

電源立地地域温排水対策事業

天然資源調査

(抄 録)

蛭名政仁・小泉広明

天然資源調査

1. 漁獲実態調査

- (1) 白糠地区においては小型定置網、刺網、一本釣、イカ釣、イカナゴ棒受網の5漁業種類が行われている。
- (2) 年間の各漁業種別の漁獲量と漁獲割合はイカ釣が1,589トン(54%)で以下、定置網1,185トン(40%)、棒受網100トン(3.4%)、刺網33トン(1.1トン)、一本釣26トン(0.9%)であった。また、漁獲金額では、定置網が4.3億円(47%)で以下、イカ釣3.8億円(41%)、棒受網0.4億円(4.5%)、一本釣0.3億円(3.7%)、刺網0.3億円(3.4%)であった。
- (3) 年間の魚種別の漁獲量と漁獲金額では、イカ釣によるスルメイカが1,545トンで3.4億円、定置網によるサケが1,097トンで3.8億円と全体の漁業生産に対して大きな割合を占めており、スルメイカとサケに依存した漁業であった。
- (4) サケ、スルメイカ、ヤリイカ、サクラマス、カレイ類の漁獲量を昨年と比較すると、サケとヒラメが増加傾向にあった。また活魚の取り扱いは、ヒラメ、イシガレイで増加し、その他の魚の種は昨年並みであった。

2. 生態調査 対象種：アイナメ

目的 アイナメの生態的知見を収集する。

アイナメの年齢と全長の関係を雌雄別に調査したところ、以下の成長式を得た。

$$\text{雌} \quad L_t = 45.499 (1 - \exp(-0.4658(t - (0.1920))))$$

$$\text{雄} \quad L_t = 46.664 (1 - \exp(-0.3861(t - (0.3861))))$$

1歳から2歳までは、雄の成長が良く3歳以降では、雌雄ともほぼ同程度の成長となっていた。

アイナメの月別生殖腺指数(生殖腺重量/内蔵除去重量)×10³の変化を調査した。生殖腺指数は雌雄ともに10月以降、増加の傾向がみられており産卵期は、11月以降の冬期と考えられた。また、雄の方が雌に比べて早く成熟する傾向がうかがわれた。

胃内容物調査では、魚類、イカ、カニ類の捕食割合が非常に大きく、次いで多毛類、貝類の順であった。